

F-SCAN Ver. 7.00における既知の不具合について

2016年 4月
ニッタ株式会社

F-SCAN Ver. 7.00には、以下の不具合が確認されています。
ご使用にあたりましては、下記の内容をご一読くださいますようお願い申し上げます。

<[ファイル]メニューに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
10021	TAMのグラフを印刷すると、用紙からはみ出す場合があります。	ムービーウィンドウを印刷する場合は、「印刷設定」ダイアログの[TAM/STAM]タブで、[グラフの印刷]をオフに設定してください。 TAMのグラフを印刷する場合は、グラフウィンドウを選択した状態で印刷を行う
10022	対象者を選択しないまま複数回レコーディングを行った後で保存を行い、「すべてを保存」をクリックすると、一部のムービーファイルのファイル名が「データ001R.fsx」等、氏名のファイル名ではない場合があります。	リアルタイムウィンドウを開く前に対象者を選択してください。または、「保存」をクリックして1組ずつ保存してください。
10023	リアルタイムウィンドウを開こうとしたとき、「装置のセッションを保存できません」「装置を再接続してください。設定メニューからレコーディングパラメータを選択し、OKボタンを押すとセッションデータを再送します」というメッセージが表示され、センサが反応しない場合があります。この状況に陥ると、リアルタイムウィンドウを一度閉じて開き直しても同じ状態のままになります。	アプリケーションを再起動すると正常に戻ります。
10024	左右どちらかのリアルタイムウィンドウを閉じた後、残った方を180度回転させて閉じ、再度リアルタイムウィンドウを開くと、左右で逆向きのペアで表示されます。その状態でウィンドウサイズを変更すると、意図しない位置に移動します。	180度回転しているリアルタイムウィンドウを残して他方のウィンドウを閉じます。180度回転させ、0度の向きに変更した後、リアルタイムウィンドウを閉じ、再度リアルタイムウィンドウを開いてください。
10025	ステップキャリブレーションを適用し、単位を[raw]以外に設定したムービーデータのセル値表示をした値と、それをASCII保存した時の値が一致しません。また、カーソルでポイントした時にステータスバーに表示される値とも一致しません。これは、ムービーウィンドウで表示された各セルの値にはキャリブレーションが反映されず、ASCIIファイルで表示させた値およびステータスバーに表示させた値には反映されるために発生します。	ステップキャリブレーションを適用したデータの場合、セル値表示は正常にキャリブレーションが反映されていませんので、参照しないでください。
10001	キャリブレーションされたムービーの単位設定を工学単位([raw]以外)に設定し、MATLAB形式で保存すると、圧力の単位が[PSI]として出力されます。	MATLAB形式ではraw又はPSIで出力されます。

<[編集]メニューに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
10003	データの編集において、外部消去ボックスを設定した後で、内部消去や内部平均のセル/ボックスを追加した場合、後から設定したセル/ボックスの効果がありません。	外部消去ボックスを使用する場合は、外部消去ボックスを最後に設定してください。
10004	「コメント」ダイアログで、追加したコメントフィールドの項目に対して設定した値を削除することができません。	空白(スペース)や「-」を設定することでコメントを削除してください。 フィールドの項目が不要であれば、「コメントフィールドの変更」ダイアログで、フィールドリストから削除してください。

<[表示]メニューに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
10005	ムービー再生中に表示の静止を行うと、表示は静止しますが、その間もフレームは進行しており、静止を解除すると、進んだフレームから再生または最後のフレームが表示されます。	ムービーを停止させる場合は、静止ではなく、停止を行ってください。 停止は、ツールバーのアイコン、またはメニューの[ムービー]-[停止]を選択しま

10027	領域分割のツールバーを表示し、テンプレートの自動配置を行い、領域の値を表示すると、領域プロパティの[ボックス]の項目を「なし」にした場合でも、「接触ピーク圧力」の値が表示されま	領域の値を表示したくない場合は、ツールバーの[領域の値]で、「値を隠す」を選択してください。
-------	--	--

<[設定]メニューに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
10028	「レコーディングパラメータ」ダイアログの[デフォルト]をクリックしても、設定が初期化されない項目があります。初期化されない項目は以下の通りです。 [開始の遅延(秒)]、[ノイズ閾値]、[ノイズスポットフィルタ]、[フレームトリガタイプ]および「ムービートリガ」ダイアログで設定する項目全て	手動で設定し直してください。
10029	「ユーザー設定」ダイアログの[無負荷フレームの削除]で[最初から]をチェックした場合、左右のセンサで別々にフレームがカットされ、ムービーの同期がとれません。時間軸を持ったグラフ表示を行っても、開始位置がずれて表示されます。	左右のセンサで同期をとりたい場合は、無負荷フレームの削除を行わないでください。
10030	「レコーディングパラメータ」ダイアログで、トリガを有効にして、開始/終了条件に最初の接触/抜重時を選択した場合、設定した荷重・面積以下の状態でムービーの開始・停止が行われる場合があります。これは、ノイズスポットフィルタで除外している出力値を含んだ値で条件判定しているために発生します。	ノイズスポットフィルタで除外される値を考慮して、接触面積と荷重を設定してください。
10031	トリガ設定を有効にして開始条件と終了条件を設定し、グループレコーディングを有効にして記録すると、一時停止/再開する度に、5フレームの空白フレームが追加されます。この空白のフレームは、レコーディングパラメータで設定した記録フレーム数には含まれず、記録されたムービーは、設定フレーム数より多いフレーム数になります。	この動作は仕様になります。不要なフレームは、ムービーの記録後、[編集]-[フレームの削除]を選択し、フレームを指定して削除してください。

<[ムービー]メニューに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
10012	リアルタイムウィンドウ静止状態で、行反転/列反転を行うと、静止状態が解除されますが、ツールバーの[レコーディングの開始]アイコン、メニューの[ムービー]-[レコーディングの実行]が無効になっており、レコーディングが開始できません。	再度静止状態にしてから、静止解除を行ってください。
10013	トリガ設定で[最初の接触]/[抜重時]を選択した場合、全センサの荷重値の合計がトリガとして用いられます。	全センサの荷重値の合計がトリガとなる動作が仕様となります。
10032	リアルタイムウィンドウのみ開いている状態で、スマートドッキング有効の場合、レコーディング中に右側のウィンドウを移動・サイズ変更すると、左足のウィンドウがその右側に移動します。(ムービーウィンドウを開いている状態でレコーディングすると発生しません。また、左側にあるウィンドウを動かしても発生し	レコーディング中にウィンドウを移動する場合は、左足のウィンドウをドラッグして移動してください。

<[分析]メニューに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
10015	フレーム数の異なる複数のムービーに、グラフオブジェクトを作成した状態で、「オブジェクト」ダイアログで、ASCII保存を行い、時間変化を出力(X軸に「時間」/「フレーム」を選択)した場合、途中のフレームデータまでしか出力されない場合があります。これは、出力されるフレーム数として、「オブジェクト」ダイアログのリスト上で、一番上に表示されるムービーのデータが採用されるために発生します。	フレーム数が異なるムービーの場合は、個々のムービーに対してASCIIデータを出力した後、表計算ソフトなどで、データの編集を行ってください。

10033	「オブジェクト」ダイアログで、ASCII保存を行い、「荷重/圧力/面積/荷重中心移動速度の保存」を選択した場合、ファイル保存先指定のダイアログの後に出力項目のプロパティダイアログが表示されますが、プロパティダイアログで[キャンセル]をクリックすると、空のファイルが作成されます。	不要な空のファイルは削除してください。
10034	3ボックスの表を作成した際に、グラフと表の結果が一致しないことがあります。	表示方法・計算方法の違いにより、グラフから読み取れる値と、表の値は異なります。
10002	グラフのX軸を「圧力(セル統計)」に設定し、オブジェクトを指定してASCII保存を行った場合、保存されるデータが足りない場合があります。	グラフのプロパティダイアログにおいて、「圧力(セル統計)」以外を選択してください。

<[ツール]メニューに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
10016	イクイリブレーションとゼロ補正を同時に設定し、ゼロ補正の設定をファイルに保存すると、ゼロ補正の設定を読み取ることができなくなります。 ゼロ補正ファイルを開くと、イクイリブレーションの設定が読み込まれ、「ゼロ補正情報はありません」というメッセージが表示されます。	イクイリブレーションとゼロ補正はどちらか一方の設定のみ行うことが推奨されます。 両方の設定を行いたい場合は、イクイリブレーション設定を行う前に、ゼロ補正を実行し、ゼロ補正ファイルの保存を行ってください。
10017	ボックス等のグラフウィンドウで、プロパティダイアログを表示し、X軸の項目選択を長さ(列または行)に設定し、X軸のモードを割合表示に設定しても、数値表示のままになります。	誤植です。正しくは、ボックス等のオブジェクトにおける出力をセンサ全体の位置関係を保たずに、オブジェクトのサイズによって表示する機能です。

<[ウィンドウ]メニューに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
10035	スマートドッキングが有効になっている場合に、[ウィンドウ]-[重ねて表示]を実行すると、表示位置がずれる場合があります。	手動でウィンドウをドラッグして表示位置を調整してください。

<ビデオキャプチャに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
10018	ビデオキャプチャウィンドウを開いた際に、カメラのリアルタイム映像が表示されないことがあります。 Webカメラの機種によって、動作しないものや、カメラのパラメータ設定を行う必要があるものがあります。	キャプチャウィンドウの画面上を右クリックして、[カメラオプション]を選択し、適切なパラメータを設定してください。
10019	ビデオキャプチャのウィンドウで、ツールバーの[一時保存場所の指定]を実行してフォルダを設定すると、指定したフォルダの1つ上のフォルダに、一時ファイルが作成されます。	一時保存場所の指定を行う際に、出力したいフォルダに、仮のフォルダを作成しておき、そのフォルダを指定してください。
10020	ビデオデータのウィンドウを2枚以上開く、あるいは、2枚以上開いた状態で、初めに開いたウィンドウを閉じたり移動させたりすると、ソフトウェアがクラッシュする場合があります。	Intel社製HD Graphicsコントローラのドライバの不具合によるものです。ビデオデータを2枚以上開かないようにしてください。
10040	ムービーとビデオの同期再生時、終了点設定をしても再生時に「終了点」で止まりません。	ビデオデータの終了点以降をビデオ編集機能で削除してください。

